

2018年8月31日

ドゥテルテ大統領が進めるフィリピンインフラ整備計画（2）

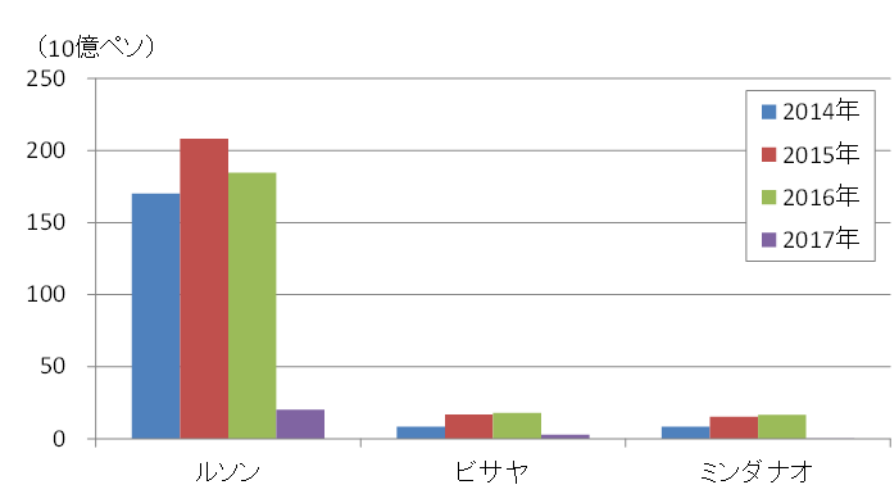
和平への前進で弾みがつくミンダナオ開発

アジア事業開発グループ

シニアコンサルタント 依田 宏樹

豊富な若い労働力が特徴のフィリピンは、経済成長を背景とする購買力の高まりなどから日本をはじめ外国企業の直接投資先として注目されている。しかし、投資の対象地域としてはマニラのある北部のルソン地方が中心で、中部のビサヤ地方や南部のミンダナオ地方に対する直接投資はまだまだ少ないのが現状である（図表1）。特にミンダナオ地方においては、これまで40年以上にわたって政府とイスラム系武装組織との武力衝突が続き、政情や治安が不安定であった。当然ながら事業投資は長らく停滞し、経済成長面は他地域に比べて大きく後れを取ってきた。住民の所得水準（世帯所得ベース）もマニラなどに比べて低水準にとどまり、大きな地域格差が問題となっている（図表2）。マニラ首都圏の平均年間世帯所得が42.5万ペソであるのに対して、ミンダナオの最大都市ダバオ市があるダバオ地域では24.7万ペソと、およそ6割弱の水準といった具合だ。

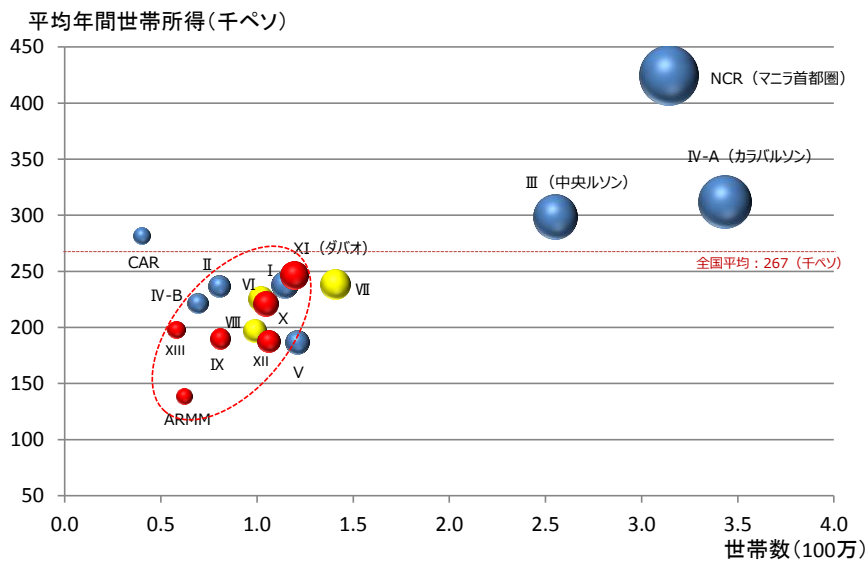
（図表1）地域別の海外直接投資認可額の推移



注：2017年は第1四半期まで

出所：フィリピン統計局（PSA）より大和総研作成

(図表 2) 地域別に見た平均年間世帯所得 (2015 年)



注：青はルソン、黄はビサヤ、赤はミンダナオ。バブルの大きさは総所得に対応
出所：フィリピン統計局 (PSA) より大和総研作成

こうした中、7月にドゥテルテ大統領が署名・発効させた「バンサモロ基本法」によってミンダナオ地域は大きな転機を迎えている。同基本法は 1990 年に設置された行政自治区であるムスリム・ミンダナオ自治地域 (ARMM) を廃止し、予算編成権など高度な権限を有するなど、イスラム教徒による自治政府樹立を認める内容だ。今後、自治体ごとに参加の是非を問う住民投票を行い、2022 年の正式な自治政府発足が目指されることとなる。これによってイスラム武装組織の武装解除が進み、ミンダナオ和平に向けて大きく前進するとの期待感が高まっている。

アキノ前政権時代に叶わなかった同基本法の成立は、ダバオ市で長年市長を務めたミンダナオ出身の初の大統領であるドゥテルテ氏の手腕によるところが大きい。出身地に思い入れのあるドゥテルテ大統領は「10 項目の社会経済政策」の一つに地方開発促進を掲げており、注力する大規模なインフラ整備計画「ビルド・ビルド・ビルド」¹においても、ミンダナオの大型インフラ整備プロジェクトが複数計画されている。経済政策・計画の様々な面でミンダナオ開発に対する強い意気込みが感じられるが、中でも予算規模最大の「ミンダナオ・ロジスティクス・インフラネットワーク」プロジェクトは注目に値しよう (図表 3)。同プロジェクトは、約 800 億ペソ (≒ 1,600 億円) を投じ、ダバオなど広範にわたる 4 地域において、農場から市場や港へのアクセス道路 (及び橋梁) 約 2,500km を整備するという壮大な計画を内容とするものだ。ミンダナオは国

¹ 大和総研コラム「ドゥテルテ大統領が進めるフィリピンインフラ整備計画」(2017 年 10 月 5 日付)
(https://www.dir.co.jp/report/asian_insight/20171005_012347.html)

内食料需要の約4割を占める主要な農産品の生産地域なのだが、現在は農場（生産地）と供給地との連結性が不十分で、高い輸送コストや大幅な食品ロスなどをもたらしている。これが同プロジェクトによるアクセス面の整備によって状況が改善され、アグリビジネスの競争力強化などにつながると期待される。この他、ミンダナオ初となる鉄道建設プロジェクトは、その第1フェーズ（105km）としてダバオ周辺の主要都市と経済特区との間に鉄道網を敷設する。鉄道整備によって人・モノ・サービスの輸送が円滑化し、地域経済の成長に寄与するとの期待も非常に大きい。

（図表3）ミンダナオ関連のインフラ整備プロジェクト

プロジェクト	実施機関	セクター	予算（ペソ）	状況	地域
ミンダナオ・ロジスティクス・インフラネットワーク	公共事業道路省	道路・橋梁	804.1億	開発	ダバオ(XI)
ダバオ国際空港（運営・保守・開発）	運輸省	空港	405.7億	調達	ダバオ(XI)
ミンダナオ鉄道・フェーズ1	運輸省	鉄道	315.4億	開発	ダバオ(XI)
ダバオ市バイパス	公共事業道路省	道路	198.1億	実施	ダバオ(XI)
ラギンディガン空港（運営・保守・開発）	運輸省	空港	146.2億	調達	北ミンダナオ(X)
東西幹線道路	公共事業道路省	道路	48.7億	実施	カラガ(XII)
パンキル湾橋	公共事業道路省	橋梁	48.6億	実施	北ミンダナオ(X)
ザンボアンガ市バイパス道路	公共事業道路省	道路	22.3億	実施	ザンボアンガ半島(IX)
ピンギアマン橋	公共事業道路省	橋梁	4.0億	実施	ソクサージェン(XII)
オサミス空港整備（Night Rating）	運輸省	空港	3.0億	開発	北ミンダナオ(X)
ディボログ空港整備（Night Rating）	運輸省	空港	2.5億	開発	ザンボアンガ半島(IX)
バガディアン空港整備（Night Rating）	運輸省	空港	2.4億	開発	ザンボアンガ半島(IX)
コタバト空港整備（Night Rating）	運輸省	空港	1.9億	開発	ムスリム・ミンダナオ自治地域(ARMM)

注：赤枠は、ダバオ地域（XI）

出所：Build Build Build（<http://www.build.gov.ph/>）より大和総研作成

これまで政治・経済の中心地マニラ周辺で開発が進む一方で、ミンダナオの経済開発は長年、手つかずの状況に置かれてきたが、ドゥテルテ大統領の就任を機に開発優先度が一気に高まっている。日本政府・企業は官民一体となって新興国へ質の高いインフラシステム輸出を推進しているが、競争力のある技術やサービスを輸出するのに、今後ミンダナオは有力な選択肢の一つに数えられよう。また、ミンダナオは農林水産資源に富む地域でありながら、インフラ整備と並んで農業や食品加工の生産性向上が大きな課題として指摘されて久しい。食品製造システムやコールドチェーンなど高品質な物流システムを組み合わせた食のインフラ輸出の対象地域としてもポテンシャルが高いといえるだろう。今後、ドゥテルテ大統領の強力なリーダーシップにより治安リスクが後退し、外国からの投資を活用した幅広いインフラ整備が進むことで、ミンダナオは飛

躍的な経済成長へのスタートを切るものと大いに期待できよう。

－（本文）以上－